

小学校第6学年1組 国語科 学習指導案

期 日 平成21年10月7日 5校時
場 所 阿蘇市立宮地小学校 体育館
指導者 教諭 田中 知博

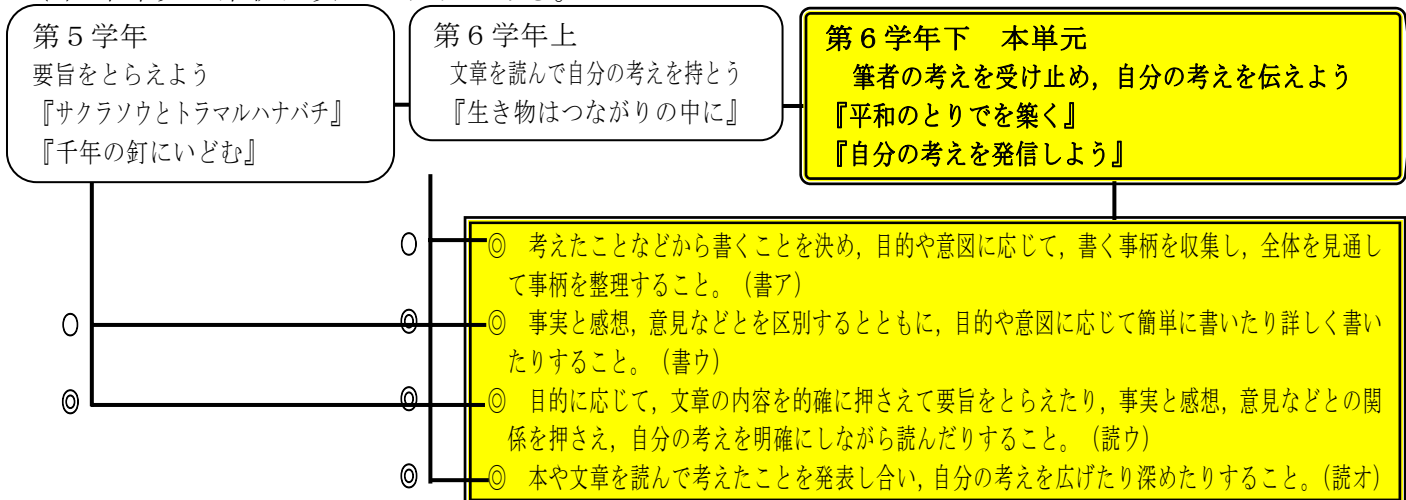
1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」(光村図書6年下)

2 単元について

(1) 子どもたちは、長崎への修学旅行を一つのきっかけとして、日本が過去に経験した戦争のこと、甚大な被害を受けた原子爆弾のこと、あるいは現に今も世界各地で紛争が起こりそこで苦しんでいる人々が大勢いることなどを学習してきた。未来を担う一員である六年生の子どもたちに、これからの国際社会のあり方は、自分たち自身の考え方や行動と関わりがあることを認識させ、自分の生き方を常に問うていって欲しいと願っている。「平和のとりでを築く」は、原爆ドームが世界遺産となったことについて考えさせることで、平和の意味について考えるきっかけとなる教材である。

本単元は、小学校の説明的な文章に関する学習の総まとめとしての意味を持っており、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」の二つの教材から構成されている。「平和のとりでを築く」の学習を通して筆者の考えを読み取り、「自分の考えを発信しよう」で戦争と平和というテーマに対する自分の考えを知識や経験を踏まえながらまとめさせていくことをねらいとしている。児童は、「平和」に関するさまざまな情報から学び、自分なりの考えをまとめ、他者と交流することによって表現力をさらに高めていくことであろう。その際、単なる感想にならないように事実と意見とを区別して書かせるとともに、文章の構成に気を付けさせながら、効果的に表現する力を高めていきたい。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。



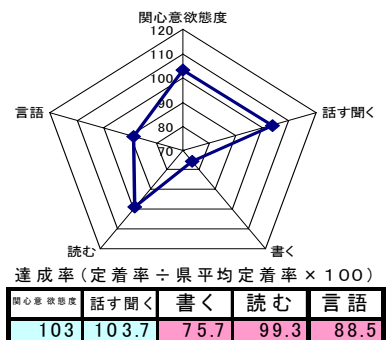
(3) 本単元に係る児童の実態は次のとおりである。(児童数28名)

○ 熊本県学力調査の結果から

昨年度実施した熊本県学力調査国語科における本学級の児童の実態は右のダイヤグラフに示したとおりである。県の定着率に対する本学級児童の定着率の割合を達成率として算出した結果、書く領域の達成率が「75.7」、言語事項の達成率が「88.5」と低いことが分かった。

書く領域に関する調査については、自分の考えなどを的確に伝えるために文章構成を考え、解説や本文の表現とつなげて効果的に整理して書く力が求められていた。したがって、本学級の児童の実態として、テキストを正確に取り取り、自分の考えを持ち、事柄を整理して、効果的な文章構成で表現する力がまだ十分に身に付いていないことが分かる。

観点別達成率(国語)



○ 前単元での実態から

前単元「文章を読んで自分の考えを持とう『生き物はつながりの中に』」では、文章の要旨を読み取り、自分の考えを持つことがねらいであった。

具体的には、問いかけの表現に着目し、自分なりの考えを持って教材文を読み深めたり、文章構成に着目し要旨を読み取ったりする学習活動を行ってきた。その結果、およそ9割の児童が文章の構成をとらえ、要旨を読み取ることができた。また、8割程度の児童が文章構成を意識した意見文を書くことができた。しかし、その内容に関しては十分な深まりが見られなかった。今後の指導において、他者と意見交流をしたり、既習事項や経験等と関連付けながら思考したりすることで自分の考えを深めていく力を身に付けさせる必要がある。なお、意見文に関して十分に満足できると評価した児童の割合はおよそ2割程度である。

このように「生き物はつながりの中に」を読んで、
おまの自分の考えを見つめ直しました。
私はロボットと生き物は、動くもの、共通点
があるので、同じようなものだろうと思っていまし
もロボットはロボット、生き物は生き物で、
それぞれちがうことがあることがわかりました
で、これから私は自分と同じように他の人
大切にしたいと思います。

十分満足と評価した児童の意見文（一）

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 思考力、判断力、表現力の育成をはぐくむ言語活動の充実を図るために、児童が目的を持ち、意欲的に取り組むように学習活動や学習過程を工夫していく。
- 単元の導入段階で、修学旅行や平和学習をふり返らせたり、新聞記事などを活用して現在の世界情勢を知らせたりして、子どもたちに「戦争」や「平和」に関する知識や考えを出し合わせる場を設定する。
- 「題名の『平和のとりでを築く』とはどういう意味か」について、児童一人一人に考えを持たせることで、教材文を読み深めていくことができるようにする。
- 自分の考えを表現する際には、「理由は（なぜなら）」「例えば」「もし」「実際に」などの言葉を用いるように指導する。これらの言葉を使うことで、既習内容や経験等とつなげて考えやすくなると思われる。
- 意見文と事例文について整理させるとともに、説明文の基本的な文章構成（はじめ・中・おわり）を考えながら書くように指導する。
- 友達との意見交流や推敲の場を設定し、より良い話材、よい良い表現になるように話し合い、テーマに沿って自分の考えが明確に伝わるような意見文になるよう指導する。

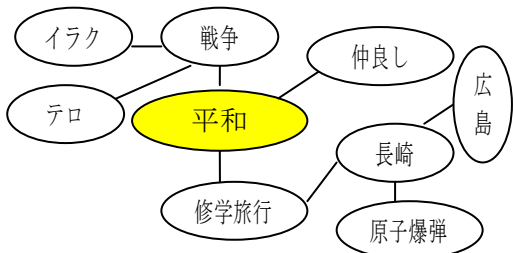
〈人権教育の視点〉

- 総合的な学習の時間での平和学習、道徳の時間での「白旗の少女」など他教科・領域とも関連させ、命の大切さや平和の尊さについて深く考える機会を設けるようにする。
- 友達の考えを互いに認め合う学級の雰囲気づくりに努め、意見の交流を通して自分の考えが深まったという実感を味わうことができるように、認め合い励まし合いの場を持つようにする。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	◎ 筆者の考えを読み取り、自分の考えを持つ。 ◎ 事実と意見を整理し、文章構成の工夫をしながら効果的に表現する。
国語への 関心・意欲・態度	○ 「原子爆弾」や「平和」などについて関心を持ち、筆者の考えについて読み取ったり自分の考えをまとめたりしようとする。
読むこと	◎ 文章の内容を正確に読み取り、筆者の考えに対する自分の考えを持つ。
書くこと	◎ 事実と意見を整理し、文章構成や表現の工夫をしながら効果的に書く。
言語事項	○ 文章全体の構成を理解している。 ○ 新出漢字、難語句や事項を理解している。

4 言語活動と熊本型授業との関連及びその指導計画（14 時間取扱い 本時 9 時間目）

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点 熊本型授業（能動型学習・徹底指導）	主な言語活動と評価 （方法）
一	2	○修学旅行や平和学習をふり返ったり、世界情勢について知らせたりして「戦争」や「平和」についての関心を高める。 ○「『平和のとりでを築く』とはどういう意味か」というテーマで初発の感想を書く。 ○教材文を読み、読みの課題を持つ。 ○新出漢字や難語句を調べる。 ○学習の見通しを持つ。	〔徹底指導〕 ○「平和」に関する話材を集めたり、自分の考えを整理したりして意見文を書き、まわりの人へ考えを発信するという学習の見通しを持たせる。 ○新出漢字や難語句について理解させる。 〔能動型学習〕 ○修学旅行や平和学習を想起したり、新聞記事などで戦争や平和に関する知識を得たりしながら、自分の考えを持つことができるようにする。  ○主題に対して自分の考えを持つことができるように、メモを取りながら教材文を読み深める。	○既習事項や自分の経験、日常の場面等を想起しながら教材文を読むことができる。（発言・観察） ○教材文を読み、初発の考えをまとめることができる。（ノート・発言）
	1	○段落構成を確認する。 ○本文を読み取り、段落ごとに内容を整理する。	〔徹底指導〕 ○これまで学習してきた説明文の構成をふり返りながら、本文の文章構成を理解させる。 ○事実・意見を整理して読み取らせる。	○事実・考え・意見を整理して本文を読み取り、文章構成を理解することができる。（ノート・発言）
	2	○読みの課題「原爆ドームの永久保存に立ち上がったのはなぜだろう」について解決する。 ○読みの課題「原爆ドームが世界遺産になったのはなぜだろう」について解決する。	〔徹底指導〕 ○根拠となる語句を手がかりに、考えをまとめさせるようにする。 ○自分の考えをまとめるために、「理由は（なぜなら）」「例えば」「もし」「実際に」の言葉を使うよう指導する。 〔能動型学習〕 ○既習内容や経験と結びつけながら、教材文を主体的に読み進めるようにする。 ○友達との意見交流の場を設定し、考えの深まりを実感できるようにする。	○根拠を明確にしながら自分の考えを深めていくことができる。（発言・観察） ○教材文を読み深めたり、他者との意見交流をしたりして、自分の考えを明確にすることができる。（発言・観察）
	1	○筆者の考えを読み取り要約する。	〔徹底指導〕 ○何度も繰り返して使われる言葉や題名に着目して筆者の考えに迫らせるようにする。	○キーワードや筆者の考えを踏まえて要約することができる。（ノート）

三	1	○テーマに対する自分の考え(仮の要旨)を持つ。 ○テーマに対する自分の考えを友達に伝える。	〔能動型学習〕 ○「戦争のない平和な世界にするためにはどうすればよいか」というテーマについて、自分の考え(仮の要旨)を持つ。 ○誰にどのような方法で伝えるのかを自分たちで考えを出し合う。	○筆者の考えに対する自分の考えを持つことができる。 (ノート・発言)
	1	○自分の考え(仮の要旨)に説得力を持たせる方法について考える。	〔徹底指導〕 ○「はじめ」「中」「おわり」の「中」では、事実や事例を取り上げることで考えに説得力を持たせることができることを例文を使って理解させる。	○説得力のある意見文はどのようなものであるかを理解できる。
	1 本時	○自分の考え(仮の要旨)に説得力を持たせるための話材を集め、整理する。	〔徹底指導〕 ○自分の考えに説得力を持たせる話材を集める際には、「理由は(なぜなら)」「例えば」「もし」「実際に」の言葉を用いて考えをまとめるように指導する。 〔能動型学習〕 ○友達との意見交流の場面を設定し、考えの深まりを実感できるようにする。	○筆者の考えと平和学習で学んだことや新聞記事、経験等との共通点を考えながら自分の考えをまとめることができる。 (ノート・発言)
	2	○集めた材料を活用し仮の要旨を確定した要旨へとまとめ直す。 ○効果的な段落構成について考える。 ○確定した要旨をもとに自分の考えを文章にまとめる。	〔徹底指導〕 ○「双括型」の文章構成について指導し、要旨のまとめ方について理解させる。 〔能動型学習〕 ○説得力を持たせた意見文にするための文章構成や例示内容等を工夫して書くように声かけをし、子どもたちが意欲的に表現できるようにする。	○集めた材料を整理し、自分の考えを明確にすることができる。(ノート) ○文章や内容等を工夫して説得力のある意見文を書くことができる。 (ノート)
	1	○自分の考えを友達に伝え、文章を推敲する。 ・文章の構成 ・事実と意見を区別した文末表現 ・誤字脱字	〔徹底指導〕 ○文章構成、事例と内容、文末表現、誤字脱字など推敲する視点を明確にする。 〔能動型学習〕 ○友達と意見文を交換し合う活動を取り入れることで、意見文の書き方等を再考し深めることができるようにする。	○友達と意見を交流し、自分の考えを深めたり修正したりして意見文を書くことができる。 (ノート)
	1	○推敲したものを整理し、友達と交流する。	〔能動型学習〕 ○友達との意見交流を通して考えの深まりを実感できるようにする。	○はじめに書いた意見文との比較から自分の考えの深まりを実感できるようにする。 (発言・観察)
	1	○単元のまとめ、評価テストをする。		
四	1			

5 本時の学習(9/14)

(1) 目標

平和学習で学んだこと、経験、身の回りの出来事などを想起してテーマに関する話材を集め、自分の考えに説得力を持たせることができる。

(2) 展開

過程・時間	学習活動【学習形態】	徹底活動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 前時をふり返り、本時の課題を確認する。	徹底	T 前時で説得力のある意見文の書き方について考えましたね。	○ 前時で活用した二つの例文を提示する。	例文
自分の考えに説得力を持たせるための材料を集め、考えを深めよう					
展開 15分	2 テーマに対する自分の考え(仮の要旨)に説得力を持たせるための話材を集める。 (1) 既習内容や経験等のつながりを想起する。 (2) 自分で考えた話材を書き出す。	徹底 能動	T どのような場面を思い出せば、話材が集まると思いますか。 C 修学旅行です。 C 今やっている平和学習です。家庭学習で読んだ新聞記事です。 C 道徳で学習した「白旗の少女」です。 T では、自分の考えに説得力を持たせるための話材を書き出してみましょう。 C <u>例えば</u> 、長崎で原爆で被害にあった建物がそのままの姿で残されていたのを見て・・・	○ 卒業文集にすることで、自分の考えを、家族や未来の自分、下級生に伝えることを確認する。 ○ 二～三行の箇条書きにするように指導する。 ○ 「例えば」「実際に」「もし」を使って具体化することを指導する。	導入時に作成した言葉集め等
展開 20分	3 集めた話材を紹介し、意見を交流し合う。 (1) 交流する前に、悩んだところや友達にアドバイスをもらいたいところなどを整理する。 (2) 3人グループでの交流をする。 ○ 自分の考えた仮の要旨と考えた材料を発表する。【班別】 ○ その材料が妥当であるか友達の意見をもらう。 (3) 全体での交流をする。【一斉】 (4) 自分の考えをまとめる。	能動 能動 能動	T このあとグループで考えを発表し合いますが、その前に、悩んだところやグループの人にアドバイスをもらいたいところなどを整理しましょう。 T 集めた話材を交流しましょう。 C 私の考えている仮の要旨は～です。この考えに説得力を持たせるための材料として～を考えました。この例の他に何かいい話材はありませんか。 T 何人か、自分の意見と集めた話材を発表してください。 T グループで解決できなかったものがあればそれも発表してください。 T より説得力を持たせることのできる材料を二～三つ選んでください。	※言語活動 他者との意見交流によって、互いに目的や意図に応じた具体的な助言ができるようになる。 ○ 意見交流の際のそれぞれの具体例等を見合う視点 ・どうしたら説得力が増すか。 ・自分との共通点や相違点は何か。 ・他にいい話材はないか。 ○ 交流後に付け加えたところは赤で記入させ、深まりを視覚的に実感できるようにする。	
評価 【書く能力】 B 自分の考えに説得力を持たせるための話材を複数集めることができる。(ノート) A 他者の意見を参考にしながらより自分の考えに説得力を持たせることのできる材料を選択することができる。(ノート)					
まとめ 5分	4 今日の学びをふり返る。	徹底	T 今日は、自分の意見に説得力を持たせたり、考えを深めたりするためには、具体例などを交えながら意見を書くといことが分かりましたね。 T また、友達の意見を聞くことで自分の考えが深まることも実感できましたね。	○ 本時のめあてが何で、どのような学習をし、何を身に付けたのかを確認する。	